

## 【表紙】

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 【提出書類】                | 訂正発行登録書   |
| 【提出先】                 | 関東財務局長  |
| 【提出日】                 | 2021年11月8日  |
| 【会社名】                 | 東洋紡株式会社   |
| 【英訳名】                 | TOYOBO CO., LTD.  |
| 【代表者の役職氏名】            | 代表取締役社長 竹内 郁夫   |
| 【本店の所在の場所】            | 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号   |
| 【電話番号】                | 大阪(06)6348-3137   |
| 【事務連絡者氏名】             | 財務部長 稲田 武彦  |
| 【最寄りの連絡場所】            | 東京都中央区京橋一丁目17番10号   |
| 【電話番号】                | 東京(03)6887-8811   |
| 【事務連絡者氏名】             | 東京支社総務部長 浜田 章史  |
| 【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】 | 社債  |
| 【発行登録書の提出日】           | 2020年4月2日   |
| 【発行登録書の効力発生日】         | 2020年4月10日  |
| 【発行登録書の有効期限】          | 2022年4月9日   |
| 【発行登録番号】              | 2 - 関東1   |
| 【発行予定額又は発行残高の上限】      | 発行予定額 50,000百万円   |
| 【発行可能額】               | 50,000百万円<br>(50,000百万円)<br>(注)発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額<br>(下段( )書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき<br>算出している。                    |
| 【効力停止期間】              | この訂正発行登録書の提出による発行登録の効力停止期間は、<br>2021年11月8日(提出日)である。   |
| 【提出理由】                | 2020年4月2日に提出した発行登録書の記載事項中、「第一部<br>証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正を必要とするた<br>め及び「募集又は売出しに関する特別記載事項」を追加するた<br>め、本訂正発行登録書を提出する。 |
| 【縦覧に供する場所】            | 東洋紡株式会社東京支社<br>(東京都中央区京橋一丁目17番10号)<br>東洋紡株式会社名古屋支社<br>(名古屋市西区市場木町390番地)<br>株式会社東京証券取引所<br>(東京都中央区日本橋兜町2番1号)         |

【訂正内容】

第一部 【証券情報】

第1 【募集要項】

1 【新規発行社債】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本発行登録の発行予定額のうち、金10,000百万円を社債総額とする東洋紡株式会社第43回無担保社債(社債間限定同順位特約付)(ソーシャルボンド)(以下「本社債」という。)を、下記の概要にて募集する予定です。

各社債の金額 : 1億円

発行価格 : 各社債の金額100円につき金100円

2 【社債の引受け及び社債管理の委託】

(訂正前)

未定

(訂正後)

社債の引受け

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しております。

| 引受人の氏名又は名称            | 住所                |
|-----------------------|-------------------|
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 東京都千代田区大手町一丁目9番2号 |
| 野村證券株式会社              | 東京都中央区日本橋一丁目13番1号 |
| みずほ証券株式会社             | 東京都千代田区大手町一丁目5番1号 |

3 【新規発行による手取金の使途】

(1) 【新規発行による手取金の額】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本社債の払込金額の総額10,000百万円(発行諸費用の概算額は未定)

(2) 【手取金の使途】

(訂正前)

借入金返済資金、社債償還資金、有価証券の取得資金(M & Aによる株式取得資金を含む)、運転資金および設備資金に充当する予定であります。

(訂正後)

借入金返済資金、社債償還資金、有価証券の取得資金(M & Aによる株式取得資金を含む)、運転資金および設備資金に充当する予定であります。

なお、本社債の手取金は、全額を医用膜製造および試薬製造に関連する新規支出又はリファイナンスに充当する予定であります。なお、実際の充当時期までは、現金又は現金同等物にて管理します。

「第一部 証券情報」「第2 売出要項」の次に以下の内容を追加します。

**【募集又は売出しに関する特別記載事項】**

<東洋紡株式会社第43回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（ソーシャルボンド）に関する情報>

ソーシャルボンドとしての適合性について

当社は、本社債についてソーシャルボンドの発行のために国際資本市場協会（ICMA）の「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2021」（注1）及び金融庁の「ソーシャルボンドガイドライン」（注2）に即したソーシャルボンド・フレームワークを策定し、適合性に対する外部評価（セカンドオピニオン）を株式会社格付投資情報センターより取得しております。

（注1）「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2021」とは、国際資本市場協会（ICMA）が事務局機能を担う民間団体であるグリーンボンド・ソーシャルボンド原則執行委員会（Green Bond Principles and Social Bond Principles Executive Committee）により策定されているソーシャルボンドの発行に係るガイドラインです。

（注2）「ソーシャルボンドガイドライン」とは、ソーシャルボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がソーシャルボンドに関する具体的な対応を検討する際に参考となるよう、いわゆる先進国課題を多く抱える我が国の状況に即した具体的な対応の例や解釈を示すことで、ソーシャルボンドを国内でさらに普及させることを目的に、金融庁が2021年10月に策定・公表したガイドラインです。

ソーシャルボンド・フレームワークについて

当社は、ソーシャルボンド発行を目的として、ソーシャルボンド原則2021が定める4つの要件（調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポートニング）に適合するフレームワークを以下のとおり策定しました。

1. 調達資金の使途

ソーシャルボンドの手取金は、以下の適格プロジェクトに関連する新規支出又はリファイナンスに充当する予定です。既存のプロジェクトに充当する場合は、ソーシャルボンドの発行日から遡って36か月以内に行われた支出を対象とします。

| プロジェクト<br>カテゴリ | 適格プロジェクト   | ソーシャルボンド原則<br>事業区分 | 対象となる<br>人々   | SDGs                                  |
|----------------|--|--------------------|---------------|---------------------------------------|
| ライフサイエンス事業     | <b>医用膜製造に係る費用</b><br>人工腎臓用中空糸膜及びウイルス除去膜等の医用膜の研究開発及び設備投資に係る費用 | ・必要不可欠なサービスへのアクセス  | ・患者<br>・一般の大衆 | 3. すべての人に健康と福祉を<br>12. つくる責任<br>つかう責任 |
|                | <b>試薬製造に係る費用</b><br>診断薬、遺伝子検査試薬等の原料酵素等の研究開発及び設備投資に係る費用       | ・必要不可欠なサービスへのアクセス  | ・患者<br>・一般の大衆 | 3. すべての人に健康と福祉を<br>12. つくる責任<br>つかう責任 |

除外クライテリア

ソーシャルボンドで調達された資金は下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- ・所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- ・人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

## 2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

当社財務部が経営企画部及び関連する事業部門と協議を行い、上記「適格クライテリア」を満たす適格プロジェクトを選定します。ソーシャルボンドの発行に際し選定された適格プロジェクトについて管理部門統括役員が決定します。

## 3. 調達資金の管理

当社ではソーシャルボンドの発行による手取金について、全額が償還されるまで四半期毎に内部管理システムを用いて、当社財務部が調達資金の充当状況を管理します。充当までの期間を要する場合、手取金の全額が適格プロジェクトへ充当されるまでの間は、現金又は現金同等物にて管理します。

## 4. レポーティング

### (1) 資金充当状況レポーティング

当社は、適格プロジェクトに調達資金が全額充当されるまで、資金の充当状況及び事業の進捗状況を年次で、当社ウェブサイトに公表します。最初のレポーティングについては、ソーシャルボンド発行から1年程度に実施予定です。

開示内容は、プロジェクトカテゴリ単位での資金充当額、調達資金の未充当資金額及び調達資金毎の充当額全額のうちリファイナンスとして充当された金額です。

なお、大きな状況の変化がある場合は適時に開示します。

### (2) インパクト・レポーティング

当社は、ソーシャルボンドの調達資金が充当されるまでの間、以下の社会的インパクトに関する指標等を実務上可能な範囲で当社ウェブサイトにて公表します。

| 適格プロジェクト   | アウトプット<br>(プロジェクトの成果)            | アウトカム<br>(アウトプットの結果として期待される効果) | インパクト<br>(アウトカムから発現する効果及び最終目標)      |
|--|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| <b>医用膜製造に係る費用</b><br>人工腎臓用中空糸膜及びウイルス除去膜等の医用膜の研究開発及び設備投資に係る費用 | 人工腎臓用中空糸膜の製造設備の増設、ウイルス除去膜製造設備の新設 | 生産量<br>(2019年度対比増加率)           | 透析患者の健康の維持<br>感染症の患者減少<br>国内医療体制の維持 |
| <b>試薬製造に係る費用</b><br>診断薬、遺伝子検査試薬等の原料酵素等の研究開発及び設備投資に係る費用       | 培養精製棟、発酵槽の増設を含む製造設備の設置           | 生産能力<br>(2019年度対比増加率)          | 国内医療体制の維持<br>感染症等の拡大防止              |